

自己点検評価報告書

(令和元年度)

令和 2年 6月 報告

名古屋美容専門学校

1. (1) 名古屋美容専門学校教育理念

美容に必要な基礎教育と専門的実践教育を行い、豊かな知性と誠実な心を持ち、社会に貢献できる人材を育成する。

(2) 名古屋美容専門学校学則

第 1 章 総 則

(目 的)

第3条 本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従い、美容に必要な基礎教育と専門的実践教育を行い、豊かな知性と誠実な心を持ち、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
a 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1
b 学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
c 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
d 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
e 学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

<現状>

a, d: 本校の教育理念・教育目標・教育方針・アドミッションポリシーはホームページ、学生募集パンフレットで開示している。入学生に対しては学生ハンドブックに記載し、入学前説明会及び初日オリエンテーションで周知している。

b: 単に国家資格を取らせるだけではなく、キャリアデザイン・コミュニケーションなどの授業、業界の方々と多くの接点を多く設け、職業観の醸成に力を入れている。

c, e: 美容師としての高い志を持った学生や、サロンに支持される学校であるべく、教育の質の向上に注力している。

<課題、今後の方策、特記事項>

教育の質の向上のためにも教職員の質の向上は不可欠である。専任教員は学級/学年運営・学習指導・生活進路指導に注力し、国家試験以外の専門スキルについては、現役美容師の力を十分に活用する仕組みの構築を始めている。さらに時代の変化に合わせ、教育(講師、就職、設備など)手法の修正も課題と考えている。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
a 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
b 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
c 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	④ 3 2 1
d 人事、給与に関する規定等は整備されているか	④ 3 2 1
e 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1

f 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1
g 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1
h 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1

<現状>

a~f: 理事会で意思決定した法人の運営方針、事業計画に基づき、本校の中長期計画や事業計画に基づいて学校運営を実施している。また、学校運営を行うための諸規程や諸規則については整備しており、適切に運営している。また、学内各種会議の機能の明確化とスケジュールも年度始めに決定している。

g: シラバスはホームページ上で公開している。保護者に対しては授業参観・メルマガ配信・学級新聞発行を定期的に行っている。

h: 各種アンケートや定期試験はマークシート方式とし、業務の効率化を図った。

<課題、今後の方策、特記事項>

・学籍簿のデータ化を平成29年度に、さらに、履修簿のデータ化を30年度に実施した。今後も業務の効率化は継続する。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
a 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 3 2 1
b 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 3 2 1
c 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 2 1
d キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 3 2 1
e 関連分野における実践的な職業教育(産学連携による職業体験・インターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 2 1
f 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 3 2 1
g 職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 1
h 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確化になっているか	4 3 2 1
i 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1
j 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 3 2 1
k 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4 3 2 1
l 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 2 1
m 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 2 1

<現状>

a~c: 各教科の到達目標はシラバスに示し授業を進めている。内規も整備済みであり平成28年度からシラバス、成績評価、単位認定などを学生ハンドブックに記載し、学生に告知している。

d~g: 平成27年度から学校関係者評価を実施し、委員の意見を教育に反映している。

e: 体系的に位置付けている。

f: 教員の授業力を高めるため、学生による授業改善アンケート、教員による授業評価、模擬授業研修

会を行っている。

h: 明確にしており、学生ハンドブックに記載し学生に開示している。

i~k: 随時改善しているが十分とは言えない。

l, m: 教員研修は計画的に行っている。元年度は4回の教務勉強会の他に教員練習会とメンタルヘルス研修を実施した。

<課題、今後の方策、特記事項>

・資格取得などに関する指導システムについては以下を整備する。

- ① 推奨検定の一覧表と優先順位 ② 検定統括者を決定した ③ 各検定チーム作成及び指導システムの確立(申し込みから結果/反省までの流れ)を30年度より導入している。
- ② 今後、「ヘアケアマイスター」を重要検定に位置付け、全教員に資格取得するよう奨励する。
- ③ i~kについては、平成30年度のカリキュラムで選択専門で検定コースを設けた。
- ④ 授業評価、模擬授業、勉強会などが教員の資質向上にどの程度役立っているかを検証する。
- ⑤ 技術的指導だけでなく、精神的指導(職業意識形成やストレス耐性など)も必要である。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
a 就職率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
b 資格取得率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
c 退学率の低減が図られているか	4 (3) 2 1
d 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 (3) 2 1
e 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 3 (2) 1

<現状>

a~c: 資格取得(国家試験)の向上と退学率の減少については学内プロジェクトを設置し、個人のノウハウから学校のノウハウとしてシステムづくりに取り組んで2年目となる。国試合格率96%、退学者数1名と一定の成果は出ている。就職率100%は当然のこととして、さらにミスマッチ低減のための職業意識形成を目的とした授業をキャリアデザインの中で行った。

d, e: 就職後の卒業生動向については、職員会議での報告及び教務データへの入力をルール化し、把握できるようになったが、教育活動改善のための活用には至っていない。卒業生会を3年間実施したが、効果がなく、令和元年より実施しない選択をした。

<課題、今後の方策、特記事項>

- ・国試合格率向上ならびに退学率減少についてプロジェクトを継続する。学校として重要教育項目の一つとして取り組むことを学内で示し続けていく。
- ・卒業生会を取りやめたため、それに代わる卒業生情報収集の施策が必要である。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
a 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
b 学生相談に関する体制は整備されているか	(4) 3 2 1
c 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
d 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(4) 3 2 1
e 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1

f 学生の学内生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
g 保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
h 卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
i 在校生への留学支援体制はあるか	④ 3 2 1

<現状>

- a: 就職担当を中心に各担任が行うよう整備している。
- b: 基本、担任・学年主任が中心に行うが、必要であれば学校全体で対応するよう整備している。
- c: 経済支援奨学金を整備している。
- d: 各クラス担任が学校日誌に記録をし、メールなどで教職員全員に情報を開示している。
- e: 業界団体や業界紙・メーカー・ディーラーの支援のもと取り組みを行っている。
- g: 学級新聞を作成し、成績表と同時に保護者に送付している。
- h: 求人紹介・資格取得(国試再受験支援)・就職相談・個別相談などを行っている。
- i: 仕組み(就職関係企業の留学制度紹介)があり、平成30年度は卒業直後の留学が2名いた。

<課題、今後の方策、特記事項>

- ・元年度は、近隣姉妹校と連携し、メンタルヘルス研修を行った。今後も教育に関わる研修に取り組む。
- ・学内での課外授業は時間的な制約などがあるため、平成29年度からクリエイティブワークを実施し、現状もご協力をいただいている。今後はさらに職業実践的な教育を展開したい。
- ・卒業生についての情報収集方法を検討したい。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
a 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
b 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
c 防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

<現状>

- a: 元年度にWifi設備を整え、スマホを活用した諸活動に利用されている。
- b: インターンシップの日程を3日から1週間と延ばし、また期間中に教員による訪問を実施した。
- c: 災害時の学生分の備蓄食料や防災訓練を行っているが、災害時の複数日の備蓄食料などはストックがない。

<課題、今後の方策、特記事項>

- ・将来の授業内容を視野に、IT関連の教育備品が必要である。
- ・1階ロビーのダウンライト照明を入れ替え、明るさを確保する。2年度に予算化した。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
a 学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
b 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
c 学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

<現状>

- a: 学生募集活動は愛知県専修学校各種学校連合会の規程に沿って適正に行っている。

- b: 教育成果は学校案内、ホームページ、SNSを通じて正確に伝えている。
- b: 高校や会場での業者企画のガイダンスにて在学生の状況を高校生に伝えている。
- b: 高校教諭に対しては、直接高校訪問を行い卒業生の状況を報告している。
- c: 学納金も適性であり、入学前の辞退者についても入学金を除き返金を行っている。

<課題、今後の毅然方策、特記事項>

- ・オープンキャンパスの内容、お手伝い学生のレベルなどを常に検討する。
- ・美容志願者の減少と同種他校の競合化に対して、新たな施策が必要。
- ・定員確保だけでなく、入学生の質の向上を図りたい。そのために業界が求めるレベルの確認と一定の入学倍率の確保を検討する。
- ・高校生のニーズに合った情報をSNSで発信する。発信方法のアップデートを常に検討する。
- ・インフルエンサーの入学生を確保することにより情報発信の相乗効果を狙う。
- ・県内マンモス校との規模や財務ではない本校特徴のアピール

(8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
a 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
b 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
c 財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
d 財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

<現状>

- a: 予算執行、監査、及び財務の情報公開については、概ね適正になされている。
- b: 支出の抑止については、予算を下回るよう執行している。
- c: 学園内で監査を実施している。

<課題、今後の方策、特記事項>

- ・支出は予算内執行をしているが、収入は頭打ちであり、各事業を見直し支出の削減を要する。
- ・学納金を令和3年度より改正する。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
a 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
b 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
c 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④ 3 2 1
d 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

<現状>

- a～d: 専修学校設置基準や関係法令の遵守を徹底し、適正な運営をしている。個人情報については方針を学生ハンドブックに明記し周知しているが、誰でも持ち出せる環境にあるため、充分ではない。自己評価の実施と問題点の改善にも努めており、ホームページ上で公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
a 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4 ③ 2 1

b 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 (3) 2 1
c 地域に対する公開講座等を積極的に実施しているか	4 (3) 2 1

<現状>

a: 大学新聞社主催の教育関係者を対象とした進路アドバイザー検定の会場に校舎を提供している。
b: 金山商店街の清掃とは別に校舎周辺の清掃活動や、エコキャップ運動など学生会主体で実施中である。

c: 金山商店街の会員として地域貢献できる活動に参加している。また、学校祭(HALLOWEEN)に近隣住民や就職業者などを招待している。また、熱田イオン、名学院大とのコラボにも挑戦した。

<課題、今後の方策、特記事項>

- ・髪や肌のお手入れ講座など、教員の専門スキルを活かした講座を、平成29年度は学生サロンで実施した。また、学校関係者評価委員会で意見を求め、複数の項目を実現した。
- ・イベントにおいては長時間勤務になる場合がある。労働時間をどのように管理するかを検討する。
- ・美容師法では学生による首から上への施術が制限される。どのようにサービス提供と教育実践の折り合いをとるかを検討する。

(11) 国際交流

<現状>

- ・現状、留学生の受け入れは行っていない。
- ・留学制度を利用し、2名が卒業直後に留学した。